

令和5年度「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」事業概要(能代市)

1 市の概要(人口 47,356 人)※令和5年4月1日現在

就学前教育・保育施設数、小学校数(令和5年4月1日現在)

幼稚園	うち、幼稚園型 認定こども園	幼保連携型 認定こども園	保育所	うち、保育所型 認定こども園	地方裁量型 認定こども園	小学校
2 園	2 園	4 園	1 1 か所	0 園	0 園	7 校

その他:個人 へき地保育所 小規模保育 事業所内 認可外1園

2 教育・保育の現状と課題

市の教育・保育の課題

- (1) 就学前施設において、保育士不足等を背景に、職員の育成が困難となっている状況が見られる。
- (2) 就学前施設、小学校職員双方において、接続期におけるこどもの育ちや学び、保護者支援に対する理解が徐々に進んできたが、組織内で共有することが課題である。
- (3) 特別な配慮を必要とする児童やその保護者に対する支援の在り方について検討が必要である。

3 事業計画の概要(3年間の主な計画)

目 的(3年間)

幼児教育・保育アドバイザーの巡回訪問等により、各施設の課題等に対する助言等を行い、就学前施設と小学校教育との円滑な接続等に向けた継続的な支援を行うなど、教育・保育の質の向上を図る。

主な内容(3年間)

教育委員会及び子育て支援課の連携による教育・保育の推進体制の充実

- (1) 幼児教育・保育アドバイザーによる市内全保育所等及び小学校への巡回訪問・助言等
- (2) 専門性向上のための職員研修会の開催
- (3) 就学前施設・小学校の職員を対象にした合同研修会の開催
- (4) 県との連携体制の強化

年度別重点

令和4年度	部局間において、教育・保育の質向上に向けた取組に係る基本的な考え方を共有し、効果的な事業推進体制を構築する。
令和5年度	幼児教育・保育アドバイザーによる施設訪問や研修機会の拡充等を通して、幼保小におけるこども理解や保護者支援の相互理解を促進する。
令和6年度	各施設における主体的な研修の充実を図るとともに、架け橋期のカリキュラム開発の取組等により幼保小の連携強化を図る。

令和5年度の実体

目 的

乳幼児期は人格形成の基礎が培われる最も重要な時期であるとの認識のもと、就学前施設及び小学校職員等を対象とした研修会の実施等、学び合う体制づくりを進め、接続期のこども理解や保護者支援に対する相互理解を促進し、教育・保育の質の向上を図る。

実施内容

（１）「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」

- ・昨年度に引き続き、幼児教育・保育アドバイザー１名を学校教育課へ配置（所属は子育て支援課）
- ・事業への理解促進のため学校教育課及び子育て支援課職員による就学前施設への訪問の実施（年度当初、年度末）
- ・就学前施設長情報交換会の開催（年２回）
- ・学校教育課及び子育て支援課の意見交換、情報共有の機会拡充による連携強化
- ・他市町村における取組事例等を参考に、幼保小の円滑な接続に向けた課題等の把握（通年）

○昨年度末、学校教育課及び子育て支援課職員による就学前施設への訪問を実施したことにより、事業への理解が進んでいる。特に学校教育課の担当者、特別支援教育関係職員の訪問が効果的だったため、今年度末にも実施する予定である。

●架け橋期のカリキュラム開発をはじめ、子どもの育ちや学びを小学校に円滑につなぐための体制づくりや取組の充実に向け、今後も部局間の情報共有、意見交換が必要である。

（２）「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

幼児教育・保育アドバイザーによる市内全保育所等及び小学校への巡回訪問・助言等

- ・就学前施設における園内研修等でのアドバイザーの活用促進
- ・就学前施設及び小学校における課題、ニーズの把握及びサポート（随時）

◇令和５年度アドバイザーによる巡回訪問・指導に関する具体的な目標（能代市）

派遣実績 計 25 施設／全 25 施設 100 回	
回	・幼稚園：私立２園（８回）
数	・保育園：公立３園（２１回）、私立８園（４０回）
	・幼保連携型認定こども園：私立４園（１６回）
	・その他の施設：小規模保育施設 １か所（ 回）、認可外保育施設 １か所（１回）、事業所内保育施設 １か所（ 回）
	・小学校： ７校（１４回）
訪	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、１０園（１６回））
問	・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、 園（ 回））
内	・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、 園（ 回））
容	・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、１８園（３３回））
	・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、１８園（１８回））
	（目標のうち、 ７校（ ７回））
	・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、１０園（１０回））
	・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、 ７校（ ７回））
	（目標のうち、 ９園（ ９回））
理	・事業周知及び実態把握等のため、各園、小学校に定期的に訪問する。
由	・幼保小連携の実態把握のため、小学校区ごとに連携・交流の情報を得て訪問する。
	・園のニーズを把握し、園内研修等に継続的に訪問する。

- 公立3園で公開保育について協議する機会を設けたことにより、経営主体の異なる園からも保育参観や研究協議に多くの参加があり、互いに研修し合おうという意識が高まってきた。
- 訪問等において、他園での幼保小連携の取組を紹介することで、小学校に対して保育参観期間を設ける園が増えてきた。さらに研究協議への参加につなげたい。
- 保育や園内研修へのアドバイザーの参加に関して、園により温度差が大きく、気軽にアドバイザーを活用してもらえるような取組の工夫が必要である。

（3）「専門性の向上のための研修の充実」

①就学前施設のニーズに沿ったテーマでの研修会の実施

第1回保育研修会 参加者 23名

開催日 6月26日（月）

場 所 能代市役所

内 容 講話「『正しさよりも優しさ』～温かい言葉を笑顔で～」

講師 能代市特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝 氏

グループ協議「困り感のある子どもへのかかわりについて」

〔参加者の感想〕

- ・「たくさん甘え、満たされた子どもが自立する」という考えに心打たれた。講話の中の先生の温かい言葉、優しい言い回しを真似して保育したいと思った。
- ・「なぜできないのか」「どうしてやる気がないのか」ばかりを考えるのではなく、見方を変えて子どもに優しく味方になることが大事だと改めて感じる事ができた。保護者への対応はとても気を使う部分だと思うので、しっかり信頼関係を築き、子どもが生活しやすい環境を園と家とで連携して作っていくことが大切だと感じた。
- ・保護者への伝え方の難しさについて話し合いをした。他園の先生方と意見交換、園の子どもの状況などを話し合い、共感し合ったり、新しいアドバイスをもらったりできた。新しい発見もあり、とても有意義な時間となった。



②保育実践力の向上に向けた研修会の実施

第2回保育研修会 参加者 15名

開催日 12月11日（月）

場 所 能代市役所

内 容 講話「園内研修の進め方について」

講師 秋田県教育庁北教育事務所 指導主事 庄司 伸子 氏

グループ協議・演習「ファシリテーターとしての園内研修の進め方」

〔参加者の感想〕

- ・保育者や保育の質を高めるためにも、一人一人の指導力、保育力の向上等、PDCAサイクルがしっかりと確立されていることが大切と痛感した。
- ・今回の協議を通して、ファシリテーターを経験し、講話で学んだポイントを心がけながら取り組んだが、実際にやってみると難しさを感じた。経験の回数を重ねながら、今回学んだポイントを頭にしっかりと入れて、自分自身成長していきたいと思った。
- ・日頃から園で取り組んでいるが、資質・能力の向上になっているかどうか、園内で見直す必要があると感じた。研修の目的、手立て等を明確にして取り組んでいきたい。



- 子育て支援課主催の研修会を今年度も2回計画した。1回目はニーズが高い特別支援教育をテーマに行い、充実した研修会となった。
- 各園とも研修の在り方を模索している実態にあるため、年度後半ではあるが、園内研修についての研修会を行い、有効性を確認した。
- △次年度は専門家による保育の在り方等についての研修を実施したいと考えている。
- △園内研修に関する研修会を計画的、継続的に実施し、各園の園内研修に活用できるようにしたい。

（４）「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

①就学前施設及び小学校職員を対象とした合同研修会の開催

就学前施設と小学校との円滑な接続における課題やニーズに応じた合同研修会の実施

令和5年度就学前・小学校合同研修会 参加者 22名

開催日 8月1日（火）

場 所 能代市役所二ツ井町庁舎

内 容 講話「育ちや学びをつなぐ幼小の円滑な接続について」

講師 秋田県教育庁北教育事務所 指導主事 庄司 伸子 氏

〔参加者の感想〕

- ・幼保小の架け橋プログラムの重要性を再確認できた。再度、熟読するとともに、1年担任だけでなく、全職員間の共有が必要だと強く感じた。
- ・「小学校入学がスタートではない」本当にそうだと感じた。子ども一人一人に今まで育ってきた背景があり、それを踏まえて指導する必要があるなと思った。幼保小の連携がとても大切だと思った。
- ・保育園の先生方の子どもの姿からの読み取りや内面理解がとても深く、小学校での児童理解にも大変勉強になった。情報交換したことを基に次年度のスタートカリキュラムの改善に生かしたい。
- ・様々な視点で考え子どもの見取り方や意見を出し合い、すり合わせたことにより、より深い子ども理解になったと実感した。情報交換の場としてもとても有効であると感じ、園にもち帰り、職員共有や就学において、円滑につなげるための楽しんで行える手立てを工夫していきたいと思った。園同士での情報共有ができるのも大変貴重なのでありがたい。



- 市主催の合同研修会により、保育の様子から子どもの育ちを読み取ることなど、幼保小の相互理解が一段と進んだように感じる。

能代市初任者研修Ⅰ 参加者 8名（小中を含め全 25名） *採用3年目までの教員対象

開催日 5月31日（水）

場 所 能代市役所二ツ井町庁舎

内 容 教育長講話

演習・情報交換

「これまでの成果と課題から改善策を話し合う」

〔参加者の感想〕

- ・普段の保育について、他の園の保育者と共感できる部分が多く、再びこのような研修に参加したいと思った。また、悩みや課題についても、自園ではできていないことを他園の保育者からアドバイスをもらったり、情報を共有したりして、とてもよい機会となった。今回の研修での情報交換を生かして、今後の自分の保育をよ



りよいものにしていきたい。

- ・グループで話すと、他の方も同じことを思っていることや悩んでいること、逆に改善策が見えてきたり、アドバイスになったりして、とてもよい学びになった。

○市の小・中学校の初任者研修に就学前施設からも参加することで、社会人としての自覚をもち、勤労意欲の高まりにつながる研修ができた。

②就学前施設と小学校の相互理解促進のための幼保小連携推進協議会の開催

第1回能代市幼保小連携推進協議会 参加者 25名

開催日 5月16日（火）

場 所 能代市役所二ツ井町庁舎

内 容 講話「幼保小交流における子どもの姿を見取る視点について」

講師 秋田県教育庁北教育事務所 指導主事 庄司 伸子 氏

講話「令和4年度の学校・園訪問より」（教育・保育アドバイザー）

グループ協議 「小学校区ごとの年間計画の作成」

〔参加者の感想〕

- ・交流年間計画を話し合う機会はとてもよかった。それに加え、入学した1年生の様子（子どもと実際に触れ合い、人となりが分かり始めた時期）を伝え、幼児期の様子を聞くことができたのも、これからの参考になった。
- ・保育参観の視点を具体的に示していただき、大変勉強になった。また、「遊び」のもつ意味・力の大きさを再認識することができた。小学校の生活科にもつながる内容で大切にしたいと思った。
- ・幼児期の遊びの大切さを改めて感じ、様々な経験が小学校以降での能力などに直接つながっていくことを学ぶことができた。そのために一人一人の子どもの姿を見取る視点を考えながら、小学校へつなげていきたいと思った。



第2回能代市幼保小連携推進協議会

開催日 11月9日（木）

場 所 能代市役所二ツ井町庁舎

内 容 行政説明「幼児教育スタートプランの実現について」

講師 秋田県教育庁北教育事務所 指導主事 庄司 伸子 氏

演習・協議「持続可能で効果的な連携及び交流活動の在り方を考える」

〔参加者の感想〕

- ・この協議会が始まってから、本園のように市内6小学校へ就学する身として、連携がしやすくなった。小学校の話のほか、他園の実施状況を知ることができ大変ありがたく思う。
- ・まずは各組織での確かな情報伝達が必要だと思う。担当が変わっても継続していけるために大切だと考える。また、連携をして互いにどんなよいところがあったかどんな育ちにつながっていると感じたかを伝え合い、互いを知ることが持続可能な連携のために必要だと思う。



第3回能代市幼保小連携推進協議会

開催日 2月22日（木）

場 所 能代市役所二ツ井町庁舎

○幼保小連携推進協議会の年3回のサイクルが軌道に乗ってきた。第1回で小学校区の交流計画を立案し、第2回は管理職を対象とした意見交換、第3回は連携の振り返りと就学児の情報交換というねらいで実施している。

③幼児教育・保育アドバイザー通信「てのひら」の定期発行（月1回）

・能代市の就学前施設（17施設）及び小学校（7校）に配付

○幼保小連携の研修会や交流の情報、園訪問で参観した保育の様子、園内研修の情報などを掲載し、就学前施設や小学校の連携等に活用できるよう、定期的に発行している。

（５）「県との連携体制の充実」

・県と連携しながら就学前施設と小学校教育との円滑な接続に向けた継続的指導や支援

・就学前教育推進協議会、教育・保育アドバイザー連絡協議会への参加

・県教育・保育アドバイザーの育成支援の活用

・県主催の連絡協議会等の事業を通じた他市町村との情報交換等

○幼保小連携推進協議会、就学前・小学校合同研修会等、県の支援により、事業の意義を認識し、より有効な研修となるような助言を得て開催することができ、参加者の事業への理解が深まってきた。

○県の要請訪問等への同行は、保育参観、研究協議の助言等、実際の保育を基にした保育の見方を知る非常に有効な学びの機会だった。

○県主催の連絡協議会は、講話や演習等参考になることが多かった。また、他市と情報交換ができる貴重な機会だった。

○他市アドバイザーに学ぶ会は、他市の教育・保育の推進体制づくりや、園へのかかわり方等を実際に学ぶ機会として大変有意義だった。

○11月7日（火）に湊城幼稚園・ていじょう保育園より保育参観の場を提供してもらい、他市アドバイザーに学ぶ会を開催し、県内8市のアドバイザーが参加して研修会を行うことができ、貴重な機会となった。

5 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業(令和5年度)の成果と課題

○幼児教育・保育アドバイザーによる施設訪問や通信等による情報発信を通じて、保育の質向上のための園内研修の在り方について、意識を高めるよう取り組んできた。徐々に研修意欲の高まりにつながってきている。

○保育研修会の実施や幼保小連携推進のための研修会等、園相互や幼保小の職員同士が情報交換を通して研修できる機会を拡充することができた。

●架け橋期のカリキュラム開発に向けた取組を通じて、部局間の連携及び幼保小の連携強化を図っていく必要がある。

●各就学前施設における課題や願い等を把握し、幼児教育・保育アドバイザーを活用した教育・保育の質向上に向けた主体的な研修の充実につなげたい。